

倒産集計**信用交換所京都本社**

11年5月繊維倒産

件数増加、大型倒産発生で負債額も膨らむ**▼全国▲ 発生件数=56件 負債額=240億6200万円**

2011年（平成23年）5月の全国繊維業者の倒産（負債額1000万円以上＝整理・内整理含む）は56件で、前月比20件（55.6%）、前年同月比22件（64.7%）と各2ケタ増となり、今年2月（61件）に続き50件超となった。

負債額は240億6200万円で、前月比180億4800万円（300.1%）、前年同月比176億1200万円（273.1%）とそれぞれ大幅に増加した。負債額が10億円以上の大型倒産は坂入商事（茨城県結城市、呉服・和装製品ほか小売、負債額41億300万円）、（株）ゆうしき（茨城県結城市、呉服卸、同40億7100万円）、（株）ジェイエース（東京都中央区、ニットウェアほか卸、同30億円）、成和第一産業（静岡県浜松市、綿広幅織物製造、同12億5000万円）、（株）ボブソン（東京都渋谷区、ジーンズ製造・小売、同10億9600万円）の5社（前年同月2社）となった。同5社で負債額全体の約80%を占め、負債額3億円未満の倒産件数が全体の70%と依然小口の倒産が大勢を占めている。

東日本大震災後の自粛ムードや計画停電などの影響で落ち込んだ消費マインドもやや改善がうかがわれ、百貨店やチェーンストアの売上高はともに前年割れの推移にあるものの、マイナス幅が縮小しているなど一部プラス材料は認められる。他方、各種セーフティネットの整備や金融機関の支援で一応の資金繰り対策も認められ、全体としてみれば企業倒産は小康状態で推移している。

繊維業界では震災の影響は未知数との見方が多く、一時的な特需は見込まれるものの、長期的にみれば販売先の消失や市場縮小、さらには生産（製造）機能の低下などの悪影響が予想される。こうした中、長引く景気低迷で体力が低下している各企業にとって、今後の業況悪化は否めず、当面は予断を許さない状況が続くものとみられる。

業種別では「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」15件、「小売商」13件、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」10件、「染色整理・特殊加工」「織物製造」各5件、「織物卸」「呉服・和装製品製造卸」「寝具・インテリア製品製造卸」「その他」各2件。

原因別では「業績ギリ貧」が39件で全体の69.6%を占め、次いで「業況急変」12件、「資金力薄弱」4件、「貸し倒れ損失」1件となった。

▼京都▲ 発生件数=1件（前年同月0件） 負債額=6億9900万円（前年同月0円）**▼滋賀▲ 発生件数=0件（前年同月0件） 負債額=0円（前年同月0円）**